

熊谷医師会看護専門学校で開かれた博愛祭の様子。熊谷市大原



健康教室やバザー 博愛祭に200人来場

熊谷市医師会
看護専門学校

熊谷市大原の熊谷市医師会看護専門学校(西山秀木校長、学生数155人)で15日、第40回博愛祭が開かれ熊谷市内外から親子連れなど約260人でにぎわった。

テーマは、「『笑顔』みんなも自分も楽しもう」。校内の西棟、東棟では、学生らが趣向を凝らした健康教室やバザー、やきそばや焼き鳥などの模擬店が出店。アロマオイルでのハンドマッサージコーナーは予約がすぐに埋まるほどの人気ぶりだった。

深谷市から夫婦で訪れた蛭

川隆司さんは、「孫が入学した学校を見てみたかった。先輩学生も優しく楽しそうで安心した。人の役に立つ立派な看護師になってほしい」と目を細めた。

同校は63年設立。高等課程准看護学科と専門課程看護学科があり、准看護師、看護師の受験資格が得られる。博愛祭実行委員長の保泉直輝さん(27)は、母親が、がんに罹患(りかん)したことがきっかけで同校に入学。働きながら正看護師を目指している。来場者に喜んでもらえて良かった。ここでは主体的な活動を通し創造性、協調性、問題解決能力を育んでいます。結果は必ずついてくると信じ頑張りたい」と話した。

副校長の古川明美さんは、「一度社会に出た方も看護技術に関心を持ち入学してこられます。医師会のバックアップも大きいです。県北地域の慢性的な人材不足もあり、興味のある方はぜひ門をたいてほしい」と話していた。

(タウン記者 栗原和江)